

## 夏休み前に学ぶ「自分の身体を大切にしよう！」小学生のための親子性教育学習会 ～筑波大学附属病院助産師による体験型性教育～

近年、SNS やインターネットの普及により、子どもたちが性に関する情報へ容易にアクセスできる環境が広がっています。一方で、発達段階に応じた正しい知識の習得や、「自分を大切にすること」を育む教育の重要性が一層高まっています。そこで、筑波大学附属病院の助産師たちが、桜川市立真壁学園義務教育学校（茨城県桜川市）において、小学4年生とその保護者を対象とした親子性教育学習会を開催いたします。本学習会では、思春期を迎える子どもたちに向けて、身体と心の変化を正しく理解する機会を提供するとともに、「命の誕生の奇跡」や「自分も友達も大切にすること」の重要性について、親子で学びます。講師は助産師としての専門知識と実務経験を活かし、妊婦体験ジャケットによる擬似妊娠体験や、実物大の胎児人形を用いた赤ちゃんの成長過程の学習など、体験型プログラムを実施します。実際に見て、触れて、体感する学びは、子どもたちにとって理解を深めるとともに、心に残る貴重な機会となります。

### 開催概要

日時：令和8年7月10日（金）13：30～ 約1時間～1時間30分  
会場：桜川市立真壁学園義務教育学校 西体育館  
対象：小学4年生 88名（男子51名、女子37名）および保護者

### 主な学習内容

- ・思春期に起こる身体と心の変化：個人差のある身体の成長
- ・親子で学ぶ「命の教育」：命の誕生と「自分が生まれてきたこと」の尊さ
- ・自分自身と友達を大切にすること（SNS時代に求められる「自分を守るための性教育」）
- ・小学4年生から始まる身体の準備と成長
- ・妊婦体験・胎児人形を活用した体験型プログラム

### 開催の経緯

本事業は、筑波大学附属病院による地域貢献活動「まちの保健室」がきっかけとなりました。当該活動に参加した小学校教員が、助産師による健康教育・性教育の取り組みに関心を寄せたことから、学校現場での出前授業として本学習会が実現しました。医療と教育、地域が連携した実践的な取り組みとして、次世代の健やかな成長を支えることを目的としています。また、助産師による専門性の高い性教育授業は、医療と地域が連携した学校教育の先進事例でもあります。

### 取材について

学習会当日の参加児童・保護者ともに顔出し取材可能及び妊婦体験や胎児人形を活用した体験型授業の撮影も可能です。写真・映像とともに、視覚的に伝わりやすい素材が用意されています。

#### 問い合わせ先

（所属） 筑波大学附属病院 看護部

（メールアドレス） hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp